

参考資料：執筆条件の参加者の等質性を確認するための分散分析

1. 年齢

執筆条件ごとの年齢の平均値と標準偏差は、統制条件で $M = 44.1$ ($SD = 7.8$)、アウトライン条件で $M = 44.9$ ($SD = 7.6$)、構造型アウトライン条件で $M = 42.0$ ($SD = 8.3$)であった。執筆条件を要因とする分散分析の結果、条件の主効果は有意でなかった ($F(2, 57) = 0.47$, $p = .63$)。

2. 執筆の好み（値が大きいほどキーボードを選好）

執筆条件ごとの執筆の好みの評定値の平均値と標準偏差は、統制条件で $M = 3.80$ ($SD = 1.36$)、アウトライン条件で $M = 4.22$ ($SD = 1.31$)、構造型アウトライン条件で $M = 4.05$ ($SD = 0.90$)であった。執筆条件を要因とする分散分析の結果、条件の主効果は有意でなかった ($F(2, 57) = 0.60$, $p = .55$)。

3. 手書きの執筆頻度

執筆条件ごとの手書きの執筆頻度の評定値の平均値と標準偏差は、統制条件で $M = 3.75$ ($SD = 1.80$)、アウトライン条件で $M = 3.33$ ($SD = 1.82$)、構造型アウトライン条件で $M = 3.36$ ($SD = 1.68$)であった。執筆条件を要因とする分散分析の結果、条件の主効果は有意でなかった ($F(2, 57) = 0.35$, $p = .71$)。

4. タイピングの執筆頻度

執筆条件ごとのタイピングの執筆頻度の評定値の平均値と標準偏差は、統制条件で $M = 5.55$ ($SD = 0.94$)、アウトライン条件で $M = 5.56$ ($SD = 1.15$)、構造型アウトライン条件で $M = 5.55$ ($SD = 0.91$)であった。執筆条件を要因とする分散分析の結果、条件の主効果は有意でなかった ($F(2, 57) = 0.35$, $p = 1.00$)。